

四條畷市教育委員会ニュース

内容：

- ・「秋田県学校視察に行ってきました！」
- ・すべての学校で授業改善を柱にすえて

「秋田県学校視察に行ってきました！」

視察目的：「秋田県における教育行政や日常的な小中学校の教育実践について学ぶため」

視 察 者：教育委員会事務局教育部学校教育課 指導主事 川口 厚・花岡 純

行 程：

6月4日（水） 八峰町教育行政説明

6月5日（木） 八峰町立水沢小学校 八峰町立塙川小学校 八峰町立峰浜中学校

6月6日（金） 能代市立浅内小学校 能代市立能代南中学校

※6月5日は「小中連携実践研究モデル事業」授業研究会・全体研修会に参加

～秋田の教育に学ぶ～

子ども主体の授業

「パックになっているものの全部の代金はどのように求めるのですか」と今日のめあてを読みあげる子どもたちのはりのある声。それに対して、指名された子どもが自分で書いたこの一時間のまとめを発表。秋田の教育に学ぶために、訪問させていただいたある小学校4年・算数の授業の一場面でした。参観させていただいたどの授業でも子どもたちがよく考え、積極的に話す、いわゆる「子ども主体の授業」が展開されていました。

「相手意識」の高さが素晴らしい教育実践を生む

平成26年6月4日、美しい田園風景が広がる中、秋田空港から白神山地の入り口、「あきた白神」駅へ向かい、駅周辺の宿泊施設にて、八峰町教育委員会 千葉 良一 教育長、八峰町立峰浜中学校 長浜 中 校長先生と同校 多賀谷 雅人 教頭先生(昨年度の教育フォーラムでご講演いただきました。)に、

『**歓迎** 大阪府四條畷市教育委員会 指導主事の皆様』という横断幕とともに出迎えていただきました。

秋田県視察の中で、印象的だったのは、この横断幕のように、来校者に対する“おもてなし”の心。この「相手意識」が、日常の素晴らしい教育実践につながっているのではないのでしょうか。例えば、授業において、子どもの立場にたって、何がわかっていて何がわからないのか、どのように言えばわかりやすいのか、学校の様子や予定等は、保護者の立場に立って、どのような情報をどのように伝えればよいのかと考えるということが、教育には欠かせないものであることは間違いのないと思います。



全てのクラスでの、学習定着率の高い授業

さて、学校現場に話を戻すと、今回の視察では、小中学校合わせて20クラス以上の授業を参観させていただきましたが、とにかくどの教室でも、どの小中学校でも、あるいは、どの経験年数の先生も、「めあて」や「まとめ」の提示、構造化された板書が日常の授業においてなされており、合わせて、子どもの学習意欲の高さが印象的でした。

以下は、上述の4年・算数の授業展開と板書です。

①めあてを共有し、学習課題を提示する【出会う】

赤線の枠で囲むことが統一されています。

②見通しを共有する【結び付ける】

一人で考える前に、必ず見通しを共有し、子どもたちが自分の考えをもてるようにします。

③一人ひとりが自分で考える【向き合う】

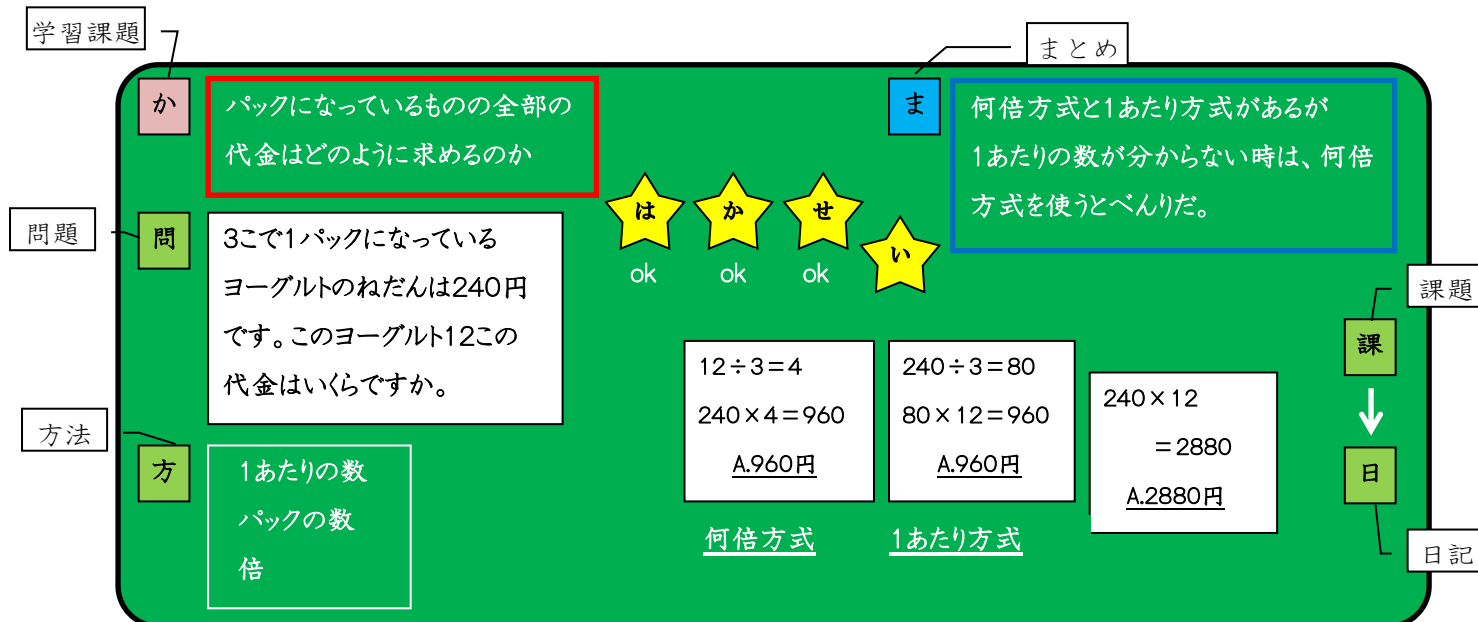
子どもの考えを予め想定し、必要に応じてヒントとなるカードを用意することもあります。

④自分の考えを発表し、より良い解き方(最適解)を見つけるための意見交流をする【つなげる】

「は」や「い」「か」「んたん」「せ」「いかく」「い」つでも使えるという観点で、意見を出させます。

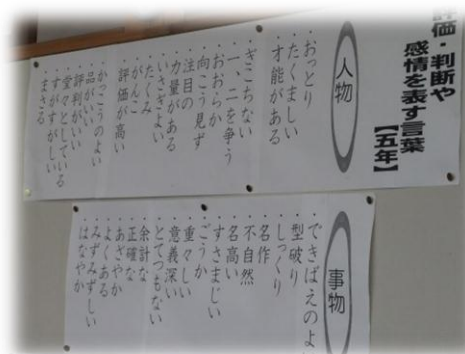
⑤授業のまとめをする【振り返る】

授業の最後に、子どもたちに自分のことばでノートにまとめをさせ、それを発表させた後に、先生が黒板でまとめます。さらに、定着を図るための問題を解かせ、一人ひとりの丸つけをし、早くできた子には、その時間の感想をかかせています。



このような授業展開が、他学年の教室でも、校種がかわっても行われていることが、授業後に撮らせていただいた板書の写真から伺い知ることができ、どのクラスにおいても、毎時間、「学習定着率の高い授業が行われている」ということがわかりました。

学校全体での素晴らしい掲示物



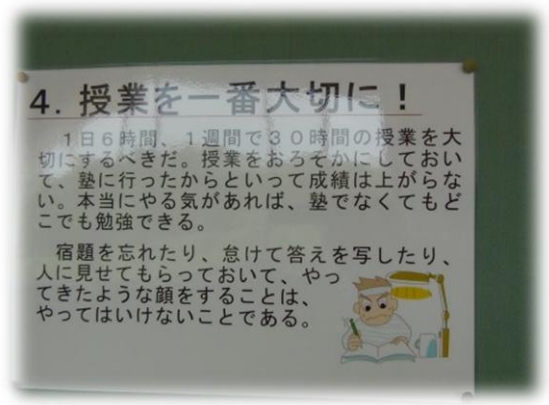
学校の学習環境をしてみると、とにかく素晴らしい掲示物であふれています。内容別に3つ紹介します。

まず、『学習の補助になる掲示物』です。これまでに学習した内容がすぐに振り返られるように、教室の横や後ろに、「これまでの学習内容(既習事項)」が掲示されています。算数では、既習事項を使って新しい問題を解いていくことがよくあります。その際には、これらの掲示物は大変有効です。また、「研究テーマ

や研究教科に関する掲示物」があります。例えば、国語を研究している学校では、発表のための話型や、感想や評価に関することばの一覧表、算数を研究している学校では最適解を見つけるための考え方等が掲示されています。このような掲示物は、全ての学級で教室の同じ場所に掲示されており、学校全体で組織的に取り組んでいることがわかります。

次に、『子どもの作品』です。図工や習字の作品はもちろんのこと、自主学习ノートや授業ノートの写しも掲示されていました。それぞれには、子どもたちの学習評価につながるように必ず先生のコメントが記されており、保護者の温かい一言が添えてあるものもありました。このような掲示物は、1つの手本となり子ども同士の学習の高め合いにつながります。他にも、俳句の作品がたくさん掲示されています。掲示箇所は廊下、掲示板、職員室前、校長室前、階段の各段(けあげ面)等多様です。面白かったのは、中学校の掲示物にあった枕草子を真似ての作品。今を生きる子どもたちが書いた作品は現代風枕草子として生き生きと書かれていました。レポートの掲示も印象的でした。体育祭・修学旅行のレポートや理科のレポート等を通して、学習を振り返り、その学習内容の定着がより深まることを期待して、学校全体で取り組んでいることがよくわかりました。

最後に、『自己を律する・高めるための掲示物』です。校長室には、教育目標が掲示されています。これは、教職員がめざすべき方向性を明確にするのに有効だと感じました。いわゆる、目標の見える化です。中学校に多かったのは、自己を高めるための掲示物。「夏服をしっかりと着こなそう」という生活目標、「家庭学習で復習をしっかりと知識をつけよう」という学習目標が具体的な子どもたちのことばで掲示されています。また、「失敗を恐れず 努力を忘れず 夢をあきらめず」という心を支える言葉や「学びの7ヶ条」と題して、自己を高めるための言葉等もありました。学校全体で育てたい子ども像、あるいは、めざすべき教育像が、掲示物を通して、具現化されているのだと感じました。



子ども主体の授業づくりをめざして

この秋田から学んだこと、特に、「子ども主体の授業づくり」は、現在、四條畷市でも実践を広めていこうとしているところです。見てきたことや感じたことは、文字にするとどうしても伝えきれませんが、あらゆる機会を通して、文字の奥にある見えないところを伝えていき、それらを少しでも先生方と共有し、子どもの「わかった、できた」が1つでも多くなればいいなと思います。

今後、視察から得たことを、「大阪の授業スタンダード」の内容ともうまく関連づけながら、学校への授業づくり支援を進め、四條畷市の教育をより一層充実させていきたいと考えております。

(花岡 純 記)

昨年度の教育フォーラムから「秋田の実践を手がかり」に、本年度は実際に訪問し得られたものは大きく、授業改善に取り組んでいるすべての学校と連携しながら、子どもたちの確かな育ちに取り組んでいます。



全ての学校で授業改善を校内研究の柱にすえて！

一学期も終わりの時期を迎え、夏の花々が暑さにも負けず咲き誇る校庭の花壇の横を、子どもたちはさまざまな成果を胸に満足げに下校していきます。

市教育委員会では例年各学校を訪問し、教育計画実施状況の把握に努めていますが、今年度から子どもたちの学習状況も参観する機会を設けてきました。どの学校においても、子どもたちの笑顔で落ちついて学習に取り組んでいる姿に出会うことができ、また、廊下・教室掲示も子どもたちの作品で彩られ、学習環境が隅々まで整えられていることが見て取れます。



小学校 1 年生の図画作品

色彩豊かに「いろいろアイスクリーム」

昨年度末教育総括において「日常の授業では、話し合い活動が少なく、教員の指示命令が中心で子どもが受け身になっている。そのため、子どもたちの学習意欲、学習態度、生活習慣に課題がみられる」指摘を受け、今年度、市全体で子どもが主体になる授業づくりをめざす取組みを進めています。学校では、聞く力・話す力・書く力を伸ばすことで、「伝え合う力」を育てる言語活動の充実に向けた校内研究が多く見られるようになりました。また、「聞き方・話し方のやくそく」などの掲示がどの教室にもあり、学校全体で統一して言語環境を整える工夫がなされ、授業での子どもと教員の会話にも温かさが感じられ、主体的に授業に取り組む子どもの姿も見られるようになってきました。



小学校「声のものさし・聞き方・話し方名人」の掲示

中学校の授業では、4 人班編成の学習形態による協同学習が行われ、班での話し合い活動による言語活動を通して、思考力・判断力・表現力を育てる取組みも行われています。また、全教員が年間 1 回以上授業を公開する学校もあり、同僚間で熱心に授業力を磨くことにも努めています。



中学校 3 年生数学科「4 人班による協同学習」

このように校内研究・研究授業がすべての学校で課題意識を持ちながら行われるようになり、そこに市教育委員会の指導主事が関わるこ

とも多くなってきました。

校内研究の指導助言や授業の事前研究会にも指導主事が訪問し、アドバイスをします。教員から「頼りにされる指導主事」をめざし、担当業務を抱えながらも遅くまでパワーポイント作成や資料作りをする姿が見られます。

この 1 学期、学校からの要請に応じ、パソコンの入ったカバンを抱えて走り回る指導主事の姿がたびたび見受けられるようになってきました。



中学校 1 年生理科 指導主事の指導助言

もうすぐ、子どもたちにとって待ちに待った夏休み。しかし、今季の夏季校内研究会は、二学期以降の授業において「子どもが主体的に学ぶ授業づくり」を求めて、数多くの研究討議会が計画されています。



小学校校内研究会「ICT の活用について」

この学校では「書画カメラ」が一人に 1 台！